

2020 11/10

No.2126

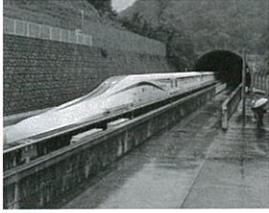
毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



JR東海は10月19日、リニア中央新幹線の改良型試験車の試乗会を行い、車内を初公開した。空気抵抗を減らすために先頭車を改良した。



視点点描	3
「独立運動」は自治の礎	
講演録	4
世界の見方と米国大統領選	
日米協会会長 元駐米大使 藤崎 一郎	
経済双眼鏡	7
ロードマップ不在	
その場しのぎの目くらまし	
政治	8
いまだ語られない「菅ビジョン」	
断ち切れるか、安倍政治の呪縛	
国際	12
報道から読み取る日中関係	
菅新政権が直面する難題	
アジアの風	15
良心的兵役拒否は犯罪ではない	
社会	16
オンラインで異文化交流を	
海外の若者とシニアを結ぶ	
企業最前線	18
多彩なパーティション次々と	
“得意技”活用し商品化	

事務局だより

◇2020年11月定例講演会
2020年11月19日(木)
午後1時30分～3時
横浜ベイシェラトンホテル&
タワーズ5階「日輪」
講師はジェイ・エス・エス代
表取締役会長で前衆議院議員
の亀井静香氏
演題は「米・中・露の世界戦
略にどう対抗するか」
※新型コロナウイルス感染拡
大の状況によっては開催方法
を変更する場合があります。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



「独立運動」は自治の礎

独立記念日といえは、多くの人は大統領選に沸く米国を思い浮かべるに違いない。今から244年前の1776年、英国統治からの独立を宣言した日として、7月4日は米国人の最も重要な祝日である。では、逗子市の「独立記念日」をご存じだろうか。

今年は逗子町（現逗子市）が1950年7月に横須賀市から「分離独立」して70年となる。市史を

ひもとくと、7月1日は市民にとって感慨深い日であることが分かる。

太平洋戦争突入後の43年4月、逗子町は一大軍港都市建設を目指す横須賀市に強制合併された。今も横須賀地域の浦賀、武山など近隣町村も、この時に編入された。

横須賀は日本にとって、海軍の司令部が置かれた最重要拠点。逗子町にも海軍の大火薬庫があり、

軍事上の指令を一本化する狙いもあったとの説もある。いずれにしても国策が優先された戦時下の合併だった。

ところが終戦後、2年間の期限付きで強制合併された町村が住民の意思で分離できる法律が公布される。それを受け、火が着いたのが逗子の「独立運動」だった。

運動の核となったのは「逗子独立期成同盟会」。多くの会員が鬼籍に入る中、副委員長だった山口茂さん（92）「逗子市桜山」は健在で、市民に貴重な経談を語り続けている。私も自宅に伺ったことがあがるが、独立の高揚感を追体験するような時間を味わった。

戦時下の強制合併に関し、山口さんは「反対したくても『非国民か』の一言で黙るしかなかった」と言い、「戦後も横須賀と商売で結びついた有力者の賛同を得られず、最初は独立の気運は高まらな

かった」と振り返った。

期限まで残り9カ月と迫った時に期成同盟会が結成され、地元の医師会が先に横須賀市医師会から分離して運動に弾みがつく。横須賀市議会に反対されながら、署名運動や住民投票、県議会の議決を経て、住民は分離独立を勝ち取る。県議会の採決はわずか5票差。

山口さんは「隣の鎌倉選出の松岡正二さんなど県議会の実力者が支援してくれた」などと回想した。三浦半島の政財界人脈にも及ぶ話は大変興味深いものだった。

米軍住宅の建設に反対した「池子の森運動」など住民運動が活発な逗子市。市民参加型の施策も充実させてきた。自分たちのことは自分たちで決める。住民自治の礎は70年前から連綿と受け継がれているのかもしれない。

（神奈川県新聞社報道部長

高本 雅通）